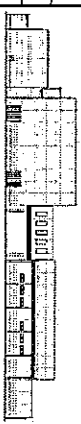


CASBEE®-建築(新築)

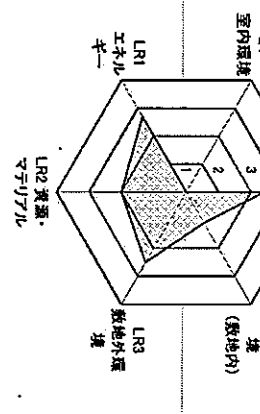
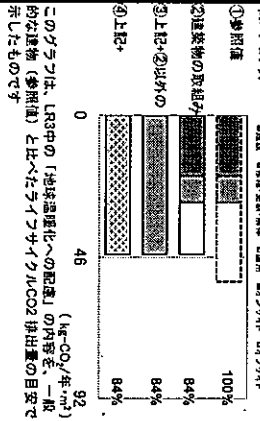
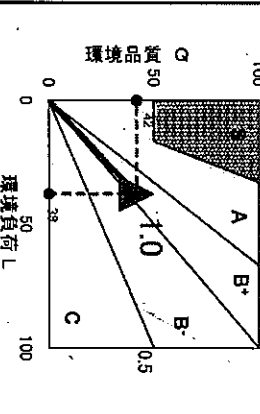
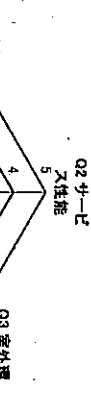
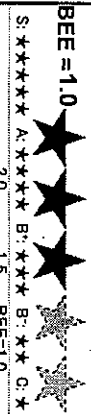
評価結果

■使用詳細マニュアル: CASBEE-BD-09R.01 ■使用詳細シート: CASBEE-BD_NC_2018(V2.1)

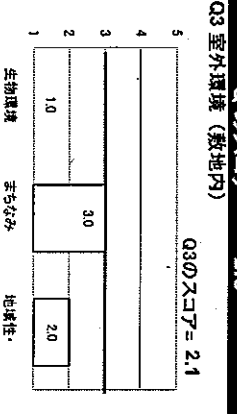
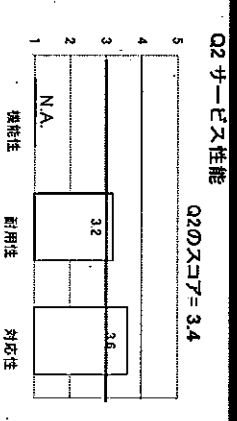
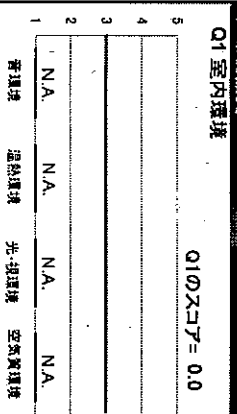
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社東亜建造 総合工場新築	階数	地上2F
建設地	埼玉県羽生市西4丁目1番11,1番12	構造	S造
用途地域	準工業地域、法第22条区域	平均居住人員	66人
地域区分	5地域	年間使用時間	2085時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年9月	評価の実施日	2019年10月8日
敷地面積	7,570㎡	作成者	株式会社大和建築設計一級建築士事務所
建築面積	4,190㎡	確認日	2019年10月8日
延床面積	5,382㎡	確認者	株式会社大和建築設計一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEE)とチャート



2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート



2-4 中項目の評価(パーチャート)

Q 環境品質	Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
1	音環境	操作性	生物環境
2	熱環境	耐用性	まちなみ
3	光環境	対応性	地域性
4	空気環境		
5			

LR 環境負荷低減性	LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
1	建物外壁の自然エネ	水資源	地球温暖化
2	換気システム	非再生材料の	地域環境
3	効率的	汚染物質	周辺環境
4			
5			

3 設計上の配慮事項

周辺環境に合わせた計画を行っている。
既存の緑地が道路面にある為それを生かしました。増設を計画している。
緑地の想定される機器を敷地中央に配置し、周辺への騒音を軽減する計画としている。

Q1 室内環境

Q2 サービス性能

Q3 室外環境(敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

その他

- CASBEE Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
- G: Quality (建築物の環境品質) L: Load (建築物の環境負荷) LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性) BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
- ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS
株式会社東亜酒造 総合工務新築工事

例に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、C
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(W2-1)

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						
Q1 室内環境						
1 音環境						
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-	-
1.2 遮音		-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-
2 昇降遮音性能		-	-	-	-	-
3 昇床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-
4 昇床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-
1.3 吸音		-	-	-	-	-
2 温熱環境						
2.1 室温制御		-	-	-	-	-
1 室温		-	-	-	-	-
2 外皮性能		-	-	-	-	-
3 ソーシ別制御性能		-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		-	-	-	-	-
2.3 空調方式		-	-	-	-	-
3 光・視環境						
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-
1 昼光率		-	-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-
1 昼光制御		-	-	-	-	-
3.3 照度		-	-	-	-	-
3.4 照明制御		-	-	-	-	-
4 空気質環境						
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		-	-	-	-	-
4.2 換気		-	-	-	-	-
1 換気量		-	-	-	-	-
2 自然換気性能		-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-
Q2 快適性と性能						
1 機能性						
1.1 機能性-使いやすさ		-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-
1 広さ感・景観		-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-
3 内装計画		-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性						
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.2	0.50	-	-	3.2
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.50	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.80	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.7	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		5.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		4.0	0.10	-	-	-
4 空調換気システムの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		4.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-

ALC+吹付塗装仕上げ4年
床:塗装20年、壁:塗装15年、天井:塗装15年
給水・汚水・雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用

3 対応性・更新性												
3.1 空間のゆとり						階高3.9m以上 0.1≦(壁長さ/柱間)<0.3	3.6	4.6	0.30	-		3.6
1 階高のゆとり							5.0	0.60	-			
2 空間の形状・自由度							4.0	0.40	-			
3.2 荷重のゆとり							3.0	0.30	-			
3.3 設備の更新性						2層天井内ごみ処理配線・保護管等により仕上材を兼ねずに更新・修繕 敷地内建物周囲・2階屋上部に設備機器の予備が置けるスペースがある	3.4	0.40	0.20		2.1	
1 空調配管の更新性							3.0	0.20	-			
2 給排水管の更新性							3.0	0.20	-			
3 電気配線の更新性							5.0	0.10	-			
4 通信配線の更新性							3.0	0.10	-			
5 設備機器の更新性							3.0	0.20	-			
6 バックアップスペースの確保							4.0	0.20	-			
G3 室外環境(敷地内)								0.97	-		1.0	
1 生物環境の保全と創出							1.0	0.30	-		3.0	
2 まちなみ・景観への配慮							3.0	0.40	-		2.0	
3 地域性・フーズ・デザインへの配慮							2.0	0.30	-		2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上							2.0	0.50	-			
3.2 敷地内温熱環境の向上							2.0	0.50	-			
LR 建築物の環境負荷低減性								0.40	-		3.4	
LR1 建築物											3.7	
1 建物外皮の熱負荷抑制											3.0	
2 自然エネルギー利用						[E]([E]in)≦1 0.66	3.0	0.13	-		4.4	
3 設備システムの高効率化							4.4	0.63	-		2.5	
4 効率的運用							2.5	0.25	-			
集合住宅以外の評価							2.5	1.00	-			
4.1 モニタリング							3.0	0.50	-			
4.2 運用管理体制							2.0	0.50	-			
集合住宅の評価												
4.1 モニタリング												
4.2 運用管理体制												
LR2 資源・エネルギー								0.30	-		3.0	
1 水資源保護											3.4	
1.1 節水						自動水栓や節水型便器を採用	3.4	0.20	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用							4.0	0.40	-			
1 雨水利用システム導入の有無							3.0	0.60	-			
2 雑排水等利用システム導入の有無							3.0	0.70	-			
2 雑排水等利用システム導入の有無							3.0	0.30	-		2.7	
2 非再生性資源の使用削減							2.7	0.60	-			
2.1 材料使用量の削減							3.0	0.11	-			
2.2 既存建築躯体等の継続使用							3.0	0.22	-			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用							3.0	0.22	-			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用							1.0	0.22	-			
2.5 持続可能な森林から産出された木材							4.0	0.22	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み						内装が乾式工法で分別性に配慮	3.7	0.20	-		3.7	
3 汚染物質含有材料の使用回避							3.0	0.30	-			
3.1 有害物質を含まない材料の使用							4.0	0.70	-			
3.2 フロン・ハロンの回避							4.0	0.50	-			
1 消火剤						発泡断熱材を採用していない	5.0	0.50	-			
2 発泡剤(断熱材等)							3.0	0.50	-			
3 冷媒							3.0	0.50	-			
LR3 敷地外環境								0.90	-		3.5	
1 地球温暖化への配慮						消費1kw時一量削減により運用時のCO2排出量を低減に配慮	3.6	0.33	-		3.6	
2 地域環境への配慮							3.6	0.33	-		3.6	
2.1 大気汚染防止						燃焼機器を採用していない	5.0	0.25	-			
2.2 湿熱環境悪化の改善							3.0	0.50	-			
2.3 地域インフラへの負荷抑制						雨水貯留槽を設置	3.7	0.25	-			
1 雨水排水負荷低減							4.0	0.25	-			
2 汚水処理負荷抑制							3.0	0.25	-			
3 交通負荷抑制							3.0	0.25	-			
4 廃棄物処理負荷抑制						ゴミ量の推計や、有害物の回収を計画	5.0	0.25	-			
3 周辺環境への配慮							3.2	0.33	-		3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止							3.0	0.40	-			
1 騒音							3.0	1.00	-			
2 振動							-	-	-			
3 悪臭							-	-	-			
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制							3.0	0.40	-			
1 風害の抑制							3.0	0.70	-			
2 砂塵の抑制							3.0	0.30	-			
3 日照阻害の抑制							4.4	0.20	-			
3.3 光害の抑制						光害チエリアンを過半満たす、広告物照明がない	5.0	0.70	-			
1 夜間照明及び屋内照明のうち目に負担を及ぼさない照明							3.0	0.30	-			
2 昼光の量的外部環境による昼間照明への削減												

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトウェアバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要			
建物名称	株式会社真理酒造 総合工機新築工事	BEE	1.1 BEEランク ★★★

2 重点項目の評価				
ライフサイクルCO2の削減のスコア 緑の保全・創出のスコア				
3.6	+	2.0	=	5.6
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常に良い 6.8以上	すばらしい 8.0以上	

3 重点項目についての環境配慮概要		スコア平均	3.6
(1) ライフサイクルCO2の削減 <CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>		スコア平均	3.6
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.6
・消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮			
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	1.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
・緑地等の維持管理用の散水栓を設置し、生物環境の保全と創出に配慮している。 ・空地率を大きくすることにより敷地内温熱環境の向上に努めている。 ・隣棟間隔を大きくすることにより温熱環境悪化の改善に配慮している。			

: 入力欄